

「おせったいひき」のはじまり

お大師さま（こうぼうだいし）への信仰が広まったのは江戸時代でした。人々は毎月 21 日にお大師さまをおまつりするため、祠や家に集まりました。そのうちにおしゃべりをしたり、手料理を持ってきたりと、今よりも娯楽が少ない時代には、この集まりが農家の人々にとっての楽しみの場となっていました。

また戦前は、大師信仰の霊場とされている篠栗八十八か所を巡礼してきた人達を、各地区で待ちうけ、お茶やお菓子などでお接待をしていました。誰もがお参りに行けなかったため、ご利益のおすそ分けも兼ねていました。迎える人たちは労をねぎらい感謝の気持ちを含めて、お茶を沸かしておもてなしをしました。

これが牛頸地区の「おせったいひき」のはじまりです。
最近ではこの行事の由来を知らずにお菓子をもらう子どもたちが増えてきましたが、各地区がそれぞれの真心で子どもたちに接するという大切な春の行事として受け継がれているようです。



横峰のおせったいひき

牛頸地区の年中行事

年中行事とは、毎年決まった時期に地域の人たちが行う行事やまつりのことです。ここでは、牛頸地区で現在も行われている行事の一部を紹介します。

ほんげんぎよう（1月7日ごろ）

正月の期間が終了する1月7日の夜に、日常生活を始めるにあたり、1年の幸せと健康を祈る行事です。7日早朝、村の組や近所の注連縄・荒神様のお供え餅・1月2日に書いた書初めなどを燃やしていました。ほんげんぎようの火で焼いた餅は食べれば病氣にならないと言われ、書初めの燃えかすが高く空に上げれば字が上手になるといわれていました。



ほんげんぎようのようす（牛頸公民館）



ほんげんぎようの準備（原）

およど（7月18日）

平野神社では毎年7月18日に「およど」という夏まつりが行われます。18日の午前中から準備が始められ、午後になると神社の境内に夜店が並び、提灯が灯されます。境内が人でにぎわう中、夜8時になると神社の拝殿では祝詞があげられ、本格的な夏の到来を前に、みんなの健康や五穀豊穡を祈願する神事が行われます。



およどのにぎわい



拝殿では神事が行われる

牛頸地区のおせったいひき

大野城市の文化財第 56 集



発行：大野城市 令和8年3月

「おせったいひき」とは？

「お大師さまの春まつり」として、毎年4月 21 日に旧牛頸区の 11ヶ所（井手（2ヶ所）・丸隈・原・中通り・大立寺・横峰・堂の本・月の浦・はたがさか・ひらた・畑ヶ坂・平田）で行われるおまつりのことです。

おまつりの日の午前中には、祠の世話人たちが、子どもたちの好きそうなお菓子を机の上に並べたり、ビニールの袋に詰め合わせたりして、おせったい じゅんぴ 接待の準備をします。

午後になると、学校が終わった子どもたちが、近所の祠に集まります。祠にお賽銭をあげてお参りをすると、お菓子をもらうことができ、子どもたちは次の祠へと移動していきます。高学年の子どもたちは帰りが遅いため、自転車に乗って祠を回ります。

おまつりは、およそ午後3時から5時の約2時間ほどで行われ、11ヶ所全てを回るのは難しいようですが、子どもたちにとってはお大師さまにちなんだ春の楽しい行事として今でも続けられています。



丸隈のおせったいひき

場所：井手（2ヶ所）・丸隈・原・中通り
大立寺・横峰・堂の本・月の浦・畑ヶ坂
（中面の地図を参照）

日時：毎年4月21日
およそ午後3時～5時のあいだ
（お菓子がなくなったら終了です）

お菓子はきちんとお参りをしてからいただきますよう

おせったいひきの日時と場所



場所：緑ヶ丘4丁目9
本尊・祭神：弘法大師
由来・伝承：明治の初めごろ、牛頸に住む老婆の夢枕に「筑紫野市二日市衆の旅籠」の押入れの中にほこりをかがつて忘れられているので、供養を頼む！とのお告げがあり、平田の旧道の傍にまつりました。その後、現在の場所に移されました。

大師堂（平田）



場所：横峰2丁目3
本尊・祭神：弘法大師・地藏菩薩
由来・伝承：通称「六地藏」と呼ばれる場所にあり延命地藏大菩薩像などがまつられていてます。弘法大師の台座には、『横峰中興師弘法大師』と刻まれています。

地藏の森（横峰）



場所：月の浦1丁目月の浦橋そば
本尊・祭神：弘法大師・薬師如来
由来・伝承：昔は、現在の牛頸浄水場の敷地内にありました。月の浦の7軒でお供えし、昭和50年頃、現在地に移されました。

大師堂（月の浦）



場所：牛頸2丁目8
本尊・祭神：弘法大師・地藏菩薩
十一面観世音菩薩
由来・伝承：「堂の本」という地名は、この観音堂は、中世の頃にあった正覚寺と関係があったと考えられています。

観音堂（堂の本）



場所：大字牛頸
本尊・祭神：弘法大師・薬師如来
由来・伝承：昭和30年代頃までは、現在の南ヶ丘5丁目にありましたが、昭和57年に現在地に移転しました。弘法大師の台座には『四拾六番 浄瑠璃寺 弘法大師中通組』と刻まれています。

大師堂（中通り）



場所：大字牛頸
本尊・祭神：山の神
由来・伝承：10月20日もしくは24日に鏡餅をあげて原組の者でおこりをします。
入ってはいけなという言い伝えがあります。

山の神（原）



場所：大字牛頸
本尊・祭神：弘法大師・観世音菩薩
奈良原兵庫助平高政朝臣
由来・伝承：堂の近くには、戦国時代末期の牛頸不動城主奈良原兵庫助平高政朝臣の墓と奈良原氏追腹之墓があります。

御神堂（井手）



場所：大字牛頸
本尊・祭神：弘法大師
由来・伝承：昔は、4月21日に、井手組の世話人の家でお茶やお菓子を出しお接待が行われていました。
毎年順番に回って行っていますが、現在待をしていました。当時は、世話人の家をお参りして行っていました。大師堂の近くで

大師堂（井手）

「おせったいひき」が行われる場所

春日市



太宰府市

凡例

- 市境
 - おせったいひきの場所
 - あずまや（簡易休憩所）
 - 駐車場
 - トイレ

おせったいひき ガイドマップ

